

群 教 七	G01 - 04
	令4.281集
	国語 - 高

高校国語において多角的に読み深めることができる生徒の育成

——「物語類型」を生かした「読解ダイアグラム」

とICTポートフォリオの活用を通して——

特別研修員 鈴木 宏明

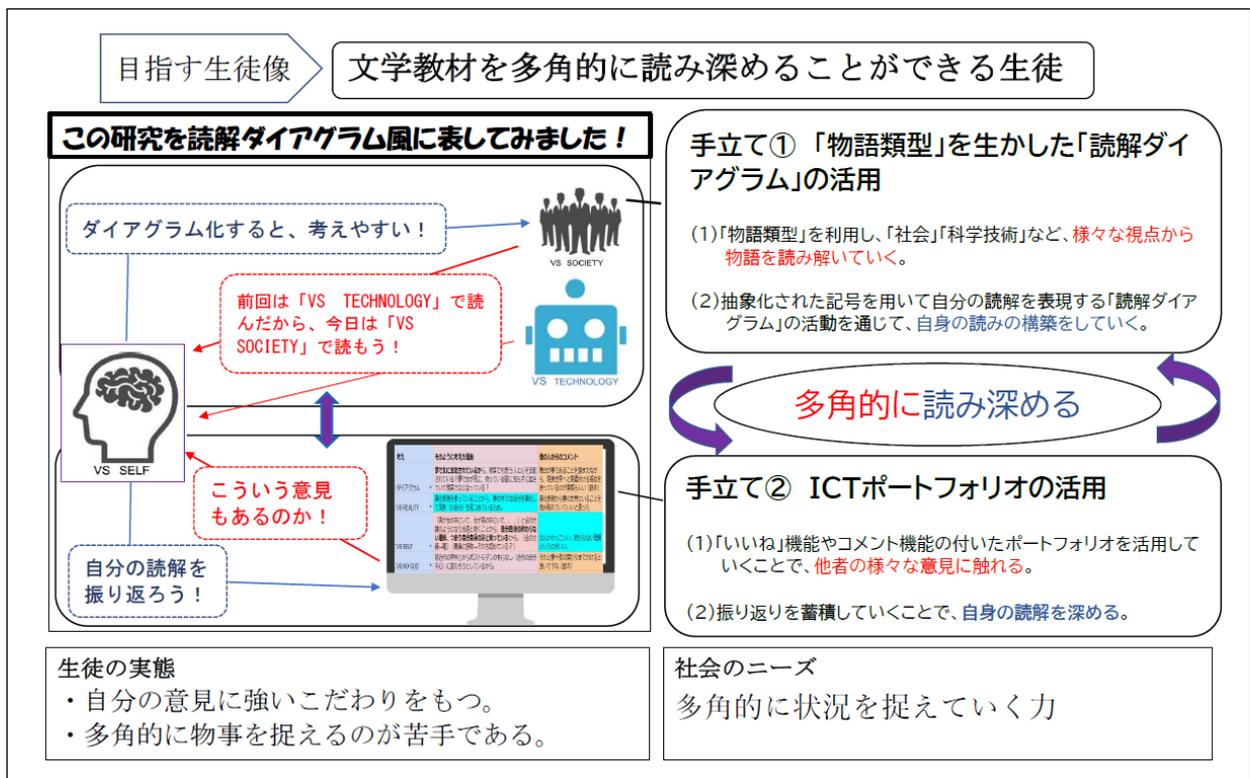
I 研究テーマ設定の理由

平成30年度に告示された高等学校学習指導要領では、現代のような「予測が困難な時代」においては、「複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている」と述べている。つまり、予測不可能な時代においては、一つの考えに執着することなく、状況に応じて自分の考えを深化させていくような知の在り方が求められているということである。

臨機応変の考え方を養っていくのに、文学作品は最適な教材である。文学作品は視点の置き方を変えることで、様々な顔を見せてくれる教材だからである。そのような意味で、文学作品は今日的な知を学んでいく上で重要な教材となるだろう。それは、実用的な文章の読み取りが重視される中、文学教材の今日的意義を問い直すことにつながるとも考えられる。視点を置く手掛かりとして「物語類型」が生かせると考えた。また、その活動のまとめとして様々な観点から行った読解の統合を図示する読解ダイアグラムの活動を考案した。さらに、それまでの読解を有機的に統合させるためには、学習活動を振り返る手段が必要である。そこで、他者と意見交流をしながら、これまでの授業を容易に振り返ることができるICTポートフォリオを作成し、活用した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

生徒が文学教材を多角的に読み深めていく方法として、以下のような手立てを通して授業改善を図ることとした。

手立て1 「物語類型」を生かした「読解ダイアグラム」の活用

「物語類型」を生かして、自分の読解を、ICTを活用しながら図示していく。この方法は、「グラフィックレコード」を参考にしている*1。本研究でダイアグラムに注目したのは、図を作っていく過程が、読解をつくりあげ、深めていく手助けになると考えたからだ。シーモア・パパートは「人間は、手を動かしながらモノを作ることで、自分の中に内在するイメージを構築することができる」と述べている*2。もちろん文章を書くことも「手を動かす」ことであり、研究協力校における教科としての一つの目標は「自分の読解を文章で記述すること」である。しかし、文章表現は順序や構造などに制約があるため、考えや発想を構築しにくい部分がある。そこで、記号やイラストを自由に配置するダイアグラムの活動を取り入れた。また、図示していくことで、他者と自分の意見を比較しやすくする、自分の意見の変容が見取りやすいなどの利点があると考えている。ダイアグラム化するためには、物語をある程度抽象化していく必要がある。そこで、物語を系統的に類別した「物語類型」を活用した。本研究で注目したのが、「conflict in literature」である。「conflict in literature」とは、物語を「主人公が何と戦っているか」という観点から九つに分けて分類したものである。物語の九つの型として、「VS SELF」「VS SOCIETY」「VS TECHNOLOGY」等がある（6ページ資料参照）。この分類は、物語を分析するにあたって、生徒に様々な視点を与える効果もある。

手立て2 ICTポートフォリオの活用

自分の読解の記録を他者と比較しながら、蓄積していく。ICTの機能を生かすことで、従来のポートフォリオの備える「奥行き」と1枚ポートフォリオの備える「一覧性」を兼ね備えている。また、このICTポートフォリオには、他者と読解を深めていくきっかけとして、「いいね」機能やコメント機能も付けた。

*1 グラフィックレコードは会議や講演などの内容を、絵やイラストなどを使って記録していく方法である。久保田はグラフィックレコードの利点として「思考力が上がる」「コミュニケーションが活性化する」「創造力が上がる」の3点を挙げている(久保田麻美「はじめてのグラフィックレコーディング」翔泳社(2020))。

*2 シーモア・パパート著、奥村貴世子訳『マインド・ストーム』未来社(1995)。シーモア・パパートは、教育の中で「ものづくり」を重視する「構築主義」の研究者として知られている。

III 研究のまとめ

1 成果

- 生徒たちは物語類型を通して様々な視点から作品を分析することができていた。また、物語類型は生徒たちが作品について議論するときに、論点を焦点化させる機能も果たしていた。結果として、議論がより生産的なものになり、読解を深める手助けになっていた。また、「読解ダイアグラム」を作成することで、生徒はそれぞれの読解を展開することができていた。ダイアグラムは、生徒が自分の読解を文章で表現するに当たってその二つを仲立ちする機能を果たしていたと考えられる。
- ICTポートフォリオは、「いいね」機能とコメント機能を通して他者との意見交流を促進させ、視野を広げていた。生徒は他者の意見をよく読み、自分の意見へと活用していた。

2 課題

- 他者に対するコメントには、まだまだ生徒への指導が必要である。コメントは「よかった」や「すごい」などで、とどまっていることが多い。
- ICTポートフォリオと読解ダイアグラムは他者と自分の意見を比較しやすい一方で、そのまま他者の意見を真似してしまうこともあった。

実践例

1 題材名 「想像力がひらく世界『夢十夜』」 (第1学年・2学期)

2 題材について

夏目漱石の「夢十夜」は、夢の話ということもあり、いわゆる「捉えどころのない」作品と見なされがちなテキストである。そのため、授業も教師主導で行われることが多い。そこで、今回の授業では、このテキストを生徒自身で主体的に読み解いていく手助けとして、物語類型「conflict in literature」を活用していきたい。「夢十夜」が「捉えどころのない」テキストだからこそ、物語の様々な側面に焦点を当てる「conflict in literature」が有効に活用できると考えたからである。また、活用していくことで「夢十夜」のもつ個性もまた引き出すことができるはずだ。三上は、教科書に収録されている「第一夜」において、「女の瞳」が「鏡」の役割を果たしており、主人公がそこに映し出される場面は、主人公の自我の「二重構造」を象徴していると述べている*1。また、高山は「夢十夜」と湖面に映った自分に恋をしてしまうナルキッソス神話の類似性を指摘している*2。これらの研究で共通しているのは、他者である「女」に自身を映し出されることで、主人公は自分の中の「他者」性に気付かされていることを指摘している点である。つまり、「夢十夜」は、自分が作り出すものでありながら自分ではコントロールができない夢を舞台にすることで、自分自身を「異化」しているテキストであると言える。その意味で、「VS SELF」「VS REALITY」の視点からこのテキストを読み解いていくことが可能であろう。この「自分自身への異化」という読解は、同じく教科書に収録されている「第六夜」についても言うことができる。柄谷は「第六夜」では「自己の生と明治時代の精神の虚ろな地盤がここで探りあてられている」と述べている*3。つまり、「夢十夜」は「統一的な自我」という近代的な考えに対して疑義を唱えているテキストと読み解くことができるのだ。その意味では、「VS SOCIETY」「VS NO GOD」の文脈からの解釈も可能である。

*1 三上公子「『第一夜』考一漱石「夢十夜」論への序一」『国文目白』(1976)

*2 高山宏『夢十夜を十夜で』はとり文庫(2011)

*3 柄谷行人『漱石論集成』岩波書店(2017)

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	夏目漱石の『夢十夜』を読むことを通して、次の事項を身に付けられるようにする。 (1) 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解できる。【知識及び技能】 (2) 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈できる。 【思考力、判断力、表現力等】 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。【学びに向かう力、人間性等】	
評価規準	(1) 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解できている。(知識・技能) (2) 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈できている。(思考・判断・表現) (3) 学習課題に沿ってテキストを読み深めるため、読解ダイアグラムやICTポートフォリオを活用して自らの学習を調整しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・「夢十夜」の初読の感想を読解ダイアグラムにまとめる。
追究する	第2時	・異化表現について学びながら「夢十夜」を「VS REALITY」の視点から読む。
	第3時	・ナルキッソス物語と比較しながら「夢十夜」を「VS SELF」の視点から読む。
	第4時	・「第六夜」と比較しながら「夢十夜」を「VS NO GOD」の視点から読む。
まとめる	第5時	・これまでの読解を生かして読解ダイアグラムを作成し、最初に作ったものと比較する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全5時間計画の第5時に当たる。本時のねらいは、「授業の過程で得た多角的な視点を統合し、自分の読解を深める」ことである。これらを達成するための手立ては、以下のとおりである。

手立て1 授業を振り返りながらの読解ダイアグラムの作成を通じて、自分の読解を表現する。

本時では、読解ダイアグラムの2回目の作成を行う。1度目の作成は、「夢十夜」初読時に行った。前回と今回のものを比較することで、生徒は自分の読解の深まりを実感できると考えている。今回のダイアグラムの作成は、プレゼンテーションアプリを用いて行う。ICTを活用することで、ダイアグラムのもつ「作成に時間が掛かる」というデメリットを克服したいと考えている。

手立て2 ICTポートフォリオを用いてこれまでの授業を振り返る。

読解ダイアグラムの作成のための振り返りの手段として、ICTポートフォリオを活用する。生徒たちはICTポートフォリオに自ら行った「conflict in literature」に基づいた読解を記録している。本時の最後には、授業を通して気付いた「夢十夜」の発見をICTポートフォリオに記述する。

4 授業の実際

(1) 前時まで

生徒たちは、単元の第1時で「夢十夜」の初読の読解を、読解ダイアグラムを用いて示した。第2～4時は、「VS REALITY」、「VS SELF」、「VS NO GOD」のそれぞれの視点から「夢十夜」を読解した。

(2) 導入

ICTポートフォリオを用いてこれまでの授業の振り返りを行った(図1)。「いいね」がたくさん付いた意見を紹介し、これまでの授業内容を振り返った。自ら本文中の表現について詳しく調べた読解や、授業で扱った内容がまとまっている読解に「いいね」が多数付いていた。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
		ここは好きなアイコンに変えて良い									
1			1年()組()番 氏名								
2	他の人の意見をコピーした場合は	考え	そのように考えた理由	他の人からのコメント	portal						
3	2022-09	ダイアグラム	夢で女に支配されているから、現実でも思う人に心を支配されている?夢で女が死に、待っている間に知らずに起きていて現実で女に会っている?	舞台が夢であることを踏まえながら、現実世界へと関連付ける視点を持っているのが素晴らしい(鈴木)	https://docs				3		
4	2022-10	VS REALITY	異化表現を使っていることから、夢の中では自分を異化して現実(の自分)を見つめているため。	異化表現から夢の世界にいることを読み取れていると思った	https://jamb				5		
5	2022-10	VS SELF	「男が女の中において、女が男の中において、い、い」と含ませ鏡のようになり永遠と続くことから、 自分自身の終わらない理解、つまり自分自身の謎と戦っているから。 (含ませ鏡一種)(最後に接吻→それも認めている?)	なんかっこいい、終わらない理解というのがいい。	https://padle				16		
6	2022-10	VS NO GOD	前近代の神中心からポストモダンの中心なし(近代の自分中心)に変わろうとしているから。	それと夢十夜の関わりまでかけると良いですね(鈴木)	https://padle				0		
7	2022-10	ダイアグラム	最初は、夢で女に支配されているから、女との愛の話だと思っていたが、授業で「女は自分」という考えを聞いて、自分自身についての話だと思うようになった。	めえとお(木崎)							

図1の注釈:

- その日のテーマ
- 自分の考えを記述
- 他の人からのコメント
- 「いいね」機能
- 授業で使ったwebページのURL

図1 ICTポートフォリオ(赤字は筆者の記述したもの)

(3) 展開

ICTポートフォリオを活用しながら、読解ダイアグラムの作成を行った。次ページ図2は実際に作成した読解ダイアグラムである。「ダイアグラムの説明」の冒頭「女(自分)に対する理解が永遠に終わらない」という記述は、ICTポートフォリオで閲覧した友達の表現を借りていると考えられる。それに続く「夢は自分の記憶を整理している」という記述は、自分の知識を生かして読み解いている。そして、最後の「女性は謎の存在である」という読解は、授業における資料を活用した読解である。

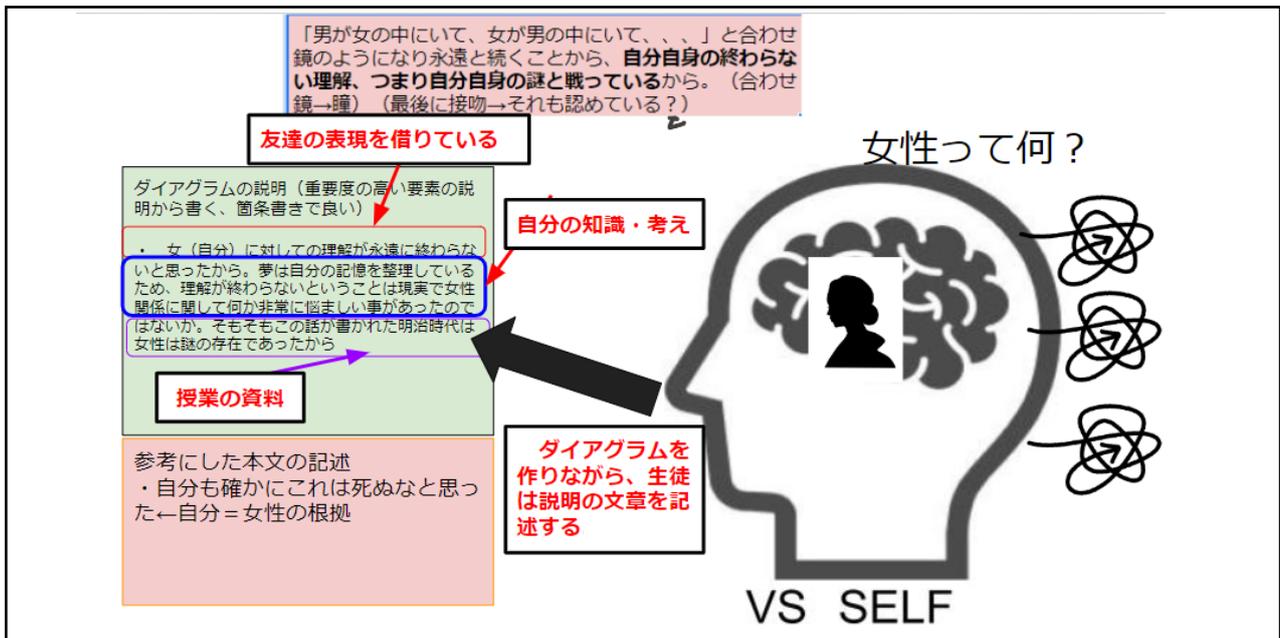


図2 生徒が作成した読解ダイアグラム (赤字は筆者が記述したもの)

最初は女に振り回される夏目漱石が石の上で待つ⇒女復活という単純な物語だと思っていたが、ポストモダンの話を聞いたり様々な考えを聞いたことによって人によって様々な解釈が違う名作だということを知った。例) 女が漱石の無意識、女が漱石自身 夏目漱石天才

図3 ICTポートフォリオの記述

次に、読解ダイアグラムを活用してクラスメイトとの意見交換を行った。最後に、以前に作った読解ダイアグラムと、今回作成したダイアグラムを見比べて、自身の読解の深まりを実感する機会を設けた。その上で、ICTポートフォリオ内に「授業を通して気付くことができた『夢十夜』の発見」を記述した。自分自身の成長に気付くとともに、文学作品の奥深さに気付く様子が見て取れた(図3)。

5 考察

ICTポートフォリオを通しての他者との意見交流においては、共感できる意見だけでなく、自分に新しい発見をもたらしてくれた意見に対して、たくさんの「いいね」が付いていた。また、他者の読解へのコメントには、「前近代から近代に変わった流れと文章を結び付けていてよいと思う」や「夢の中の他人を通して自分を見るというのが興味深いです」など、他者の読解を尊重しながら、よいところを具体的に褒めるようなコメントが目立った。生徒たちは他者の意見を参照しながら、自分の視野を広げることができたと考えられる。また、ICTポートフォリオは、授業内容の振り返りを助ける機能を果たしていた。本時に作成された読解ダイアグラムを見てみると、各時間で行った授業内容や他者の読解を統合した読解が確認できる。ICTポートフォリオと読解ダイアグラムの相互作用によって、授業で得られた知見を統合していくことができたと考えられる。

読解ダイアグラムは、読解を構築、整理していく機能を果たしていたと考えられる。生徒たちはそれぞれ個性的な読解を展開することができていた。また、「conflict in literature」の一つ一つを見ながら、どの切り口が活用できそうかを考えている様子を見取ることができた。その切り口から生徒たちは自身の多角的な読み深めを行うことができたと考えられる。

読解ダイアグラムは、今回は「conflict in literature」を使用したけど、どの物語類型が適切かどうかは教材と照らし合わせながら考えていく必要がある。ICTポートフォリオのコメント活動がより活発になれば、生徒たちの読みの深まりを更に促進すると考えられる。コメントの指導の仕方を工夫していき、ICTポートフォリオの可能性を広げていきたい。

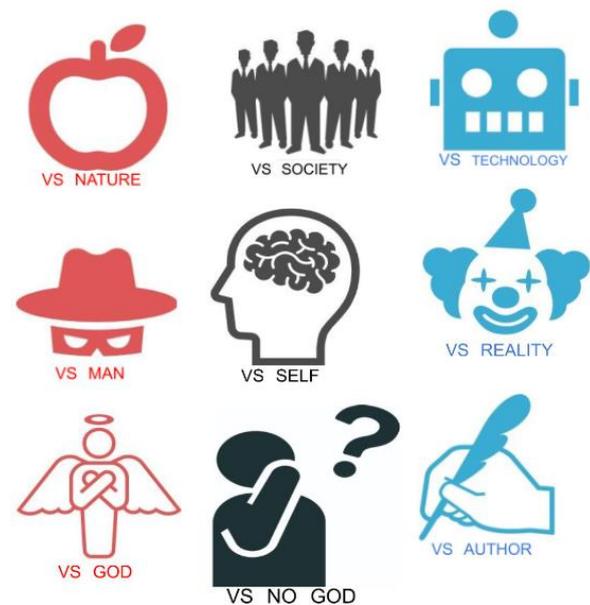
01

ダイアグラムの説明（重要度の高い要素の説明から書く、箇条書きで良い）

- ・

参考にした本文の記述

- ・



読解ダイアグラムの初期画面。生徒はここから自身の読解を展開していく。

格納庫 ver yume 1 0



ダイアグラムの作成の手助けとして、イラストも用意した。生徒はこれをコピー＆ペーストして、読解ダイアグラムに生かしていく。